

ブロック別分散会 協議記録

～全体会発表概要～

1. 北海道・東北ブロック
2. 関東ブロック
3. 北信越ブロック
4. 東海ブロック
5. 近畿ブロック
6. 中国ブロック
7. 四国ブロック
8. 九州ブロック

北海道・東北ブロック

これまで共通テーマとしてPR方法とネットワークづくりについて協議してきた。しかし、そのテーマについて成果が見られず、結果が出ていない状況なので、今後のテーマ設定方法について協議した。

原因として、研究大会中に話し合った内容を各県に持ち帰れていないということと、参加者は2年連続の参加を原則としているが実際には難しく、単年で議論が途切れてしまうことが挙げられた。

今後は研究大会をリーダー自身のスキルアップの場として考えてディスカッションを行い、単年だけの参加であってもプレゼンテーション能力の向上や、ディスカッションの方法を学べるような大会にしていきたい。その結果として、結論の出ないディスカッションであっても良いということとした。

関東ブロック

まず、前日の全体討論会の概要報告を行った。共通の問題点として、引きつぎの問題とリーダーの意識の問題が挙げられた。引きつぎに関する問題としては、引きつぎファイルを実際に回すために今年度から引きつぎ方法を変更することとした。引きつぎファイルは引きつぎ式終了後に渡すこととし、報告書のみを後日送付して、次期開催県が引きつぎファイルに報告書を綴ることとした。

参加リーダーの意識については、事前に内容を把握する必要があることから、事前にアンケートを行い各県の意思統一を行うこととし、また、全国リーダー連絡会や各県のリーダー研究大会等でそれを確認することとした。そしてプログラム作成については開催県が参加県のニーズに基づいて責任を持って取り組んでいくことが必要であることを確認した。

関東の研究大会はあと2年で一回りするのので、二巡目から設定することになった共通の目標を継続していくことを今後の検討課題とした。

北信越ブロック

研究大会の改善策として出た課題は「リーダーもスポーツ活動をする。」「日程に具体性を持たせる。」「天候に応じたプログラムを組む。」これらが挙げられた。

参加リーダーについては、現状の研究大会は決まったメンバーでの集まりになってしまっているのので、単位団に呼びかけることにした。

研究大会に参加するリーダーの意識の低さは楽しさをわかっていないことが原因なので、上のリーダーが研究大会の楽しさを新人リーダーに教えていくこととした。

開催県のレベルの低さについては、引きつぎをしっかりとすることで開催県のレベルを上げることとした。

その他、広報と大会報告書を参加者に配布することとした。

また、分科会のテーマは3年程度同じもので行うことを確認した。

東海ブロック

引きつぎの問題については、各県の特長を生かしてプログラムをつくるべきだという意見と、過去のプログラムを参考にすべきだという意見があったが、テーマ・日程・実施計画を報告書に残すこととした。

また、開催県によっては参加県の意見を把握するために必要に応じてアンケートを行っていくこととした。

リーダーが各県 15 名ずつ参加できることを生かして、研究大会を通じて県内リーダー間の引きつぎを行っている。

近畿ブロック

今年度で研究大会が一巡するので、二巡目に向けてテーマ設定をいかに行うかについて話し合った。

リーダーの質の全体的なレベルアップを目標の大きな基礎とすることとした。

これから若いリーダーが活躍していくことや将来につながるものをつくっていくこと、人数が増えたことを念頭においてテーマ設定をした。このテーマをもとに活動していきたい。

また、引きつぎ資料についてはこれまでも作成していたが、一度整理をして活用していくこととした。

中国ブロック

引きつぎの内容と方法の再検討、運営と協議の内容をリーダーの視点で考えることを話し合った。

引きつぎについては、今年度開催県である山口県が次年度開催県の島根県の会長と県本部それぞれに報告することとした。

リーダーの参加者数について、現在各県 2 名ずつであるが、上のリーダーだけで集まるのはもったいないので、人数を増やしても良いのではないかという意見が出た。

開催時期については、現在は夏に行っているが他の行事や学校部活動とも重なるので、春に実施しても良いのではないかという意見が出た。

四国ブロック

昨年度開催県から問題点として、新レクリエーションの作成と研究、ディスカッションや交流の時間配分、またスポーツ交流について挙げられた。

今年度の開催テーマについては、各県のリーダーの現状把握と、県内の引きつぎ、新レクリエーションプロジェクトが挙げられた。

新レクリエーションプロジェクトとは、まず各県それぞれでレクリエーションを考案し、最終的に四国統一の新レクリエーションを作っていくというものである。

九州ブロック

2週間後に迫った今年度の開催プログラムについて協議した。研修や意見交換に重点をおいたプログラムを作成し、全体会3時間、分科会3時間を設定した。

全体会ではレクリエーションの計画運営について、各県様々な条件下で1時間半のレクリエーションを計画し、その計画から反省までを確認していく中で、他県からの質問や意見を取り入れていき、今後の運営に活かしてもらうことを狙いとした。

また、分科会では「新人育成・組織向上について」「リーダー会の知名度向上について」をテーマとすることとした。

また、他のブロックが取り組んでいる一年間トライアルやリーダーから指導者への意見、大きな大会でのリーダーの活用方法についても全国リーダー連絡会で得た他ブロックの情報を生かして検討し協議を行うこととした。

講師講評

日本スポーツ少年団指導育成部会員

米谷 正造

今年の連絡会は、これまでの6年間を一度振り返ることが主旨でした。ひとつのけじめの会であったと思います。

講義では最近の子どもたちが置かれている非常に危機的な状況の中で、スポーツ少年団が、また皆さんが、何ができるかについてわかりやすく説明されました。

全体発表会では、単独開催形式と同時開催形式に分かれて各ブロック10分間という長い時間発表いただいたことで、新たに様々なことを各ブロックで再確認できて、次回のブロックリーダー研究大会に生かしていただけると実感いたしました。

全体討論会では、リーダーA（会長もしくは役員）グループでは、ブロックリーダー研究大会の「内容の問題と改善点」と「参加リーダーの問題と改善点」、リーダーB（次期会長候補者）グループでは「ブロックリーダー研究大会の問題点と改善点」というテーマで協議を行い、それぞれ共通理解が図れたと思います。育成担当指導者のグループでは、ブロックリーダー研究大会について「開催県の引きつぎの問題」、「テーマ設定、内容の問題」、「参加リーダーの問題」に分かれて討議いただきました。

ブロック別分散会では、ここまでで得た全国の情報を踏まえた上で、それぞれのブロックのブロックリーダー研究大会に向けて活発に議論されたことと思います。

全体的にまとめると一つ目は、解決されている問題や解決に向けて動かれている問題点が多くなっていることです。

二つ目は各ブロック内で共通理解が図れて、結束力が高まっていると思いました。

三つ目に、ブロックリーダー研究大会において具体的な課題設定を行い、それを県内の行事の中に具体的につなげていくことで、年間を通じて課題解決に取り組んでいることが報告されました。このことはひとつひとつの小さな問題解決につながっていると思います。

最後に、今年からリーダーの参加が1名増え、2名になりました。会長もしくは役員の方については、次々と問題解決をされていますし、そのことをもう1名の方に引きついでいただいていると思います。また、次期会長候補者の皆さんは、初めての経験でわからないことがたくさんあったと思います。しかし、わからないことが明確になったと思いますので、先輩や指導者の方に相談し埋めていくようにしてください。

今回の参加指導者の中には、私がシニア・リーダースクールで関わったリーダーや本事業にリーダーとして参加していた方が大勢いらっしゃいます。これは非常にうれしいことです。おそらく各都道府県のリーダー育成に関わっている指導者の方も、同じ思いであると思います。

今後、各都道府県に帰っても、リーダーとしての活動や指導者になるための自己研鑽を活発に行っていただけることを期待しております。